

技師制度認定試験を平成 21 年 11 月 15 日(日)に、認定臨床染色体遺伝子検査師制度認定試験を平成 21 年 12 月 6 日(日)に実施した。受験者数と合格者数は以下のとおりである。

- ・認定一般検査技師制度：受験者 98 名、合格者 38 名。
- ・認定心電検査技師制度：受験者 164 名、合格者 122 名。
- ・認定臨床染色体遺伝子検査師制度：受験者 2 名、合格者なし。
- ・認定遺伝子検査師制度：受験者 4 名、合格者 3 名。

40. 臨床検査技師認定機構に参加している各学会(検査血液学会は除外)、審議会、協議会と情報交換等を行った。

- 1)認定輸血検査技師認定制度
- 2)認定臨床微生物検査技師制度
- 3)日本サイトメトリー技術者認定制度
- 4)MR 専門技術者認定制度
- 5)認定血液検査技師制度

41. 当会が開催担当団体として「第 9 回 CRC と臨床試験を考える会議 2009 in 横浜」を、平成 21 年 9 月 12 日(土)・13 日(日)に開催した。

42. 「第 8 回臨床試験と CRC に関する研修会」を、平成 22 年 3 月 20 日(土)～22 日(月)に開催した。受講者は 40 名。

43. 「平成 21 年度 NST 研修会」を平成 22 年 3 月 7 日(日)に開催した。受講者は 93 名。

43. 認定あり方検討会を、日臨技認定制度に関する方向性を明確にするため、平成 21 年 7 月 11 日(土)に開催した。

44. 総合監理技師制度について WG を 3 回開催した。

#### ◇ 出版事業部

45. 会誌「医学検査」の編集を以下のとおり行った。

1)投稿・依頼論文

投稿論文：100 編(3 月 13 日現在)

- ・平成 18 年度日臨技助成研究報告：2 編
- ・平成 19 年度日臨技助成研究報告：2 編
- ・青年海外協力隊「シニア海外ボランティア」：6 編

2)特集内容

- ・「日本神経病理学会 プリオン病剖検・病理検査ガイドライン 2008」
- ・「新型インフルエンザ対策緊急研修会「新型インフルエンザ第 2 波に備えて」

46. 平成 21 年度における新刊の発行および新刊発刊予定の書籍は以下のとおりである。

1)新刊

- ・「認定心電技師のための心電図の読み方」平成 21 年 5 月 31 日発刊。
- ・「染色体遺伝子検査に基礎と臨床応用」と「臨床検査精度保証教本」を平成 22 年 3 月 30 日に発刊。

#### ◇ 国際事業部

47. 平成 21 年度第 1 回日韓代表者会議が、平成 21 年 6 月 19 日(金)韓国<大田コン

ベンションセンターにおいて開催された。

48. 平成 21 年度第 2 回日韓代表者会議が、平成 21 年 7 月 29 日(水)<パシフィコ横浜>において開催された。

48. 第 3 回「アジア臨床検査技師会(AAMLS)学会」を開催した。

1)第 3 回 AAMLS 学会：平成 21 年 7 月 30 日から 31 日、パシフィコ横浜

- ・参加人数 193 名(日本人 114 名を含む)

49. 中華民国技師会(CAMT)<台湾臨床検査技師会(TAMT)>と学術を中心とした交流を行った。

50. 開発途上国技術支援の一環として、英文フォトサーベイを、AAMLS 加盟 11 カ国 1 地域および JICA 検査技術コース研修員を含めて実施する準備を進めた。

51. 国際医療技術交流財団(JIMTEF)が実施する個別研修・集団研修への協力を強化させ AAMLS 加盟国間のネットワークづくりのため日本で研修を終えた研修生への情報支援をした。

52. IFBLS2009 の活動への支援として、1) 2009 年 11 月 20 日(金)～22 日(日)に千葉・幕張メッセで開催された IFBLS 評議員会・代表者会議の準備を支援した。

2)IFBLS のアンケートの協力や資料・情報の提供などを行い、IFBLS より発信される各種の情報の日臨技会員への提供、世界医学検査デー広報活動の推進、ホームページを通じた連携強化に努めた。

3) IFBLS expart group 活動に、資料の提供と日本の情報調査部から e-learning の技術支援を行った。

#### <決算報告>

事業活動収支部の事業活動収入として、会費収入 509,238,000 円<予算対比 101.7%>、事業収入 131,179,045 円<同 109.3%>、会誌発行事業収入 32,704,167 円<同 97.2%>、分担金収入(賠償保険広告料)3,000,000 円、その他収入は学会貸付回収費として 10,000,000 円、雑収入 1,651,788 円、他会計繰入金収入として 88,026,413 円、事業活動収入合計では 775,799,413 円<同 81%>であった。

事業活動支出としては、事業費支出 617,006,975 円<同 78%>、事業支出構成比としては 80%となる。その内訳としては、学術・技術振興事業<同 110%>、国際協力事業<同 65.8%>、精度保証事業<同 37%>、就労支援事業<同 78%>、国民医療向上・安全対策事業<同 89%>、教育研修事業<同 81%>、会誌発行事業<同 92%>、渉外事業<同 56%>、組織対策事業<同 63%>である。事業支出構成比としては、会誌発行事業 29%、学術・技術振興事業 26%、国民医療向上・安全対策事業 16.7%で、この 3 事業で 70%を超える事業展開であった。管理費支出は 92,956,461 円<同 75%>で、事業支出構成比としては 12%となる。

他会計への繰入金支出合計は 60,124,486 円、事業活動支出合計として

は 770,087,922 円<同 80%>であった。事業活動収支差額は 5,711,491 円であった。また、当期収支差額は 5,711,491 円、前期繰越収支差額は 19,154,486 円、次期繰越収支差額は 24,865,977 円となる。尚、詳細については、議案書別刷りを参照のこと。

#### <監査報告>

青山揚一監事が報告した。

##### 【監査報告書】

1 監査の概要：

適時理事会に出席するほか、平成 22 年 4 月 26 日に重要な書類等を閲覧し、必要に応じ理事及び事務職員から業務の執行等について聴取した。

2 監査結果：

- ・一般会計・各特別会計の貸借対照表をはじめ各帳簿類及び付属明細書は、いずれもおおむね適正かつ正確なものと認める。
- ・平成 21 年度の事業は適正に遂行されたものと認める。
- ・理事の業務執行は適正であり、不正の行為等は存しないものと認める。

\*\*\*\*\*

#### <質疑応答>

その後、第 1 号議案から第 4 号議案まで一括しての質疑応答に移った。以下に概要を記載するが、詳細については後日公開する議事録を参照のこと。

【概要】◆質問・意見・要望、◎回答

◆標準化委員会に所属しており、新システムの要望を出したが、決定は要望とは異なり残念であるが、その新しいシステムの運用開始時期を早くして欲しい。それについてどのように考えているか？

◎4 月の理事会で依頼会社が決定した段階であり、これからである。精度管理事業が進んでおり、標準化も含めて早急に行う必要があるが、システムの細部が指示されていることと現在の管理システム<JAMTIS>とのリンクは一朝一夕には行かないこともあり、最短でも来年度のスタートは厳しいと思っている。施行は再来年以降になると思っている。

◆出来る限り前倒しでお願いしたい。

◆臨床検査振興協議会については新会長はどのように考えているか？

◎会報をはじめ総会等で話しているが、キャッチボールをしているが、今ボールは相手側にあると考えている。ボールが行ってから 1 年以上を経過している。加入しなければ診療報酬がうんぬんという話とは違う。むしろ当会が独自で運動をした方が効果的な部分も多い。

この設立には我々は関与しておらず、最後の会議に出席し会の意見を述べた。何点か疑問があり、再考して欲しいとしたが、設立時には案内も来なかった経緯があり、組織としての対応には疑問が残っている。その後、オブザーバーとして